

元禄三年庚午 1690

獨逸醫人ケンブル和蘭医員よりて長崎より東亞歴史及言語物産を研究せんと滞在二年

江戸にも来たりて豫國の後日本見聞記事を撰り魯一七二九(一七三〇)に
我國辭風俗等之稱美し又江戸城にて將軍謁見の状を記し其見識の通達を詳記マリ

日本見聞記事 卷目 四十五回
卷一 日本國経緯十一回
卷二 日本國政説六回
卷三 神佛説七回
卷四 長崎政説五回十回
卷五 東亞和蘭通訳十回
補遺 英紙癩病余治書遊書學事聞記

四辛年未 1691

六月長崎外科醫吉田自庵東崎道有村山自伯三人共り江戸に召され幕府医官に擢られ後、
並り待医活眼の叙す
村山天徳唐津人室永内成永十六 吉田全後人正徳癸巳年七月 東崎正羽長崎人室永内成永十六

五壬年申 1692

正月朔日食 古来元旦日能志分前月を仲結し、
五月大和人桂川南流に萬方外科を以て甲府侯徳川綱豊に仕ふ
南流名印教典撰本桂森島初孫小助西遊して平戸の峯山南守に從學し又長崎より到り医術を研修す南守其才學
を愛し古流義を傳ふる者必し平戸の峯山に下り流に桂川に用ゐるべしと改姓し綱豊に仕ふ
綱豊は綱吉將軍の兄綱重の子なり綱重は甲府城主二十五万石得田御殿に侍り近至西を學び綱豊其後を慕き綱
後に藩府進朝しなり綱豊は改姓す下代將軍也

六年癸酉 1693

十二月江戸儒者新井勘解由は亦等けり水了甲府侯侍講にたり
勘解由名君美子白石初孫傳藏士屋塚田而住り仕へし其志を得ず浪人して所より浪官木下鳴庵の推挙
より甲府に移り住り家室を將軍と懇く及び桂川南流に共り幕府医官にたり南流後子待医活眼にたり勘解由亦諸
大夫に隨り後復字に稱す

七辛年戌 1694

清水水右衛門貞徳 江戶人燈炬術を全澤清左衛門より受け別り一流を立て清水流と云ふ
是年傳書目録あり本傳二十八条別傳三十六条秋傳七条秋傳七条 本傳第一條 空際之事直以眼力筆速速或更秋段
別亦文字無見町見受人眼之自然也以之爲本なり 其後書に元話一術自外國而傳者本邦に在り七十餘年中有秋段
傳亦三十餘病也余就人傳其道於我邦其於不曉深思爲病後得此術之要之故初示傳自中記別傳終以印可傳
以便學也流傳津而不及其半之數也而己 天福七年戊子十二月 清水元庵啓
長崎医人吉田自休齋死後長元和、際遠く亞橋港に至り医術を學び降り南亞和蘭支那の外科
三方に取捨して一家を起し三國流外科傳三十卷を撰り門人後田昌子等嗣に傳ふ自庵也

八辛年乙 1695

三月華夷通商多し長崎人西川如見の所撰して海外地理風俗の第一史なり
本書は編者の著者の承諾を蒙りて此事を都て出版す○細川十洲曰く如見の著書往々詭譎ありし當時の
學術に及ばず誰人も免れずらん世に西洋學術を新しむるに如見の功ありしを以て如見の功ありしを以て
十一月長崎和蘭通訳目付の責を託け彼實を監督せしむ本木庄大夫始神守に刺髪し良意改名

1708 子戌年五永室
 八月南臺黒船来リ一人王屋久島に留て去リ十一月其人王屋崎に渡送セリ和原通詞中津屋語を記藤子者主揮西善右衛門今村市兵衛等其遣り當り安人生國姓名を問けし羅馬國人ヨワンバテイヌタローグ天主教布宣のため来り申す乃因護して江戸に急報す長崎醫人植林春育頼比其業盛す行り四月綱吉將軍召て侍還り為さんす春育詳して就かす筑前の黒田侯より召りたれど又辞して往かす

1709 丑巳年六
 正月將軍綱吉薨す前四世綱吉家宣薨す六代將軍十一月長崎囚獲の羅馬人と江戸に送致す新井勘解由助命を承て其人を捕し来由を記し其國俗を問ふ隨從通詞今村市兵衛通稱す依先例羅馬人を小日向山屋敷に置く後六年此其命今村明主碑、考美生、最善著語、永成子秋、西洋羅馬人其潛航法未幾廣州執之致時、蓋夫教徒也、官命從之、東邦、美生以譯從、蓋有句問出、以通譯當是時、白石先生問以地之華美生、傳譯使、蓋其意、是以醫學者聞く免る西洋紀聞 新井白石所撰 上云羅馬人の問答筆記す天主教義を記せしは書の外多く見す古賀洞廣の叙あり 是羅馬人據港口供新井堪泰欽也 蓋誌而汝其語者其所說地理証俗視之明清人書所載頗有異同夫秋美生之善教所謂新井之撰者云、白石好短其才不能若暗而觀明故陸其云申耳 文化丁卯曉月个臣書○大學傳十章 泰誓曰若有一个臣、未諳个古賀文とあり採り姓の匿稱とせしなり

1710 寅辰年七
 二月和原甲必丹 江戸例參新井白石表す羅馬人より所聞せし事實と甲必丹が質疑し後一書を述作す采覽異言是也十一月中御門帝即位

1711 癸卯年元徳正
 建部孝次郎輝當て教學星學を修め木造日時計を作り將軍呈覽覽弘徳川家人へ復録三百名又規矩術を過す將軍追傳の厚に此器を献す長崎醫人植林春育頼比子栄久植林春育頼比子孫榮智 聖徳寺後四世塔山高五世塔山福六世和山 高相建和山 植林重重植林堂傳の北に諸書同く 卷三月廿九に上云了れり別人の心をも一語を以て與人の心をも鏡山を以て手て原筆して 其若くは傳へしに未訓

1712 辰任年二
 和原甲必丹コレレラケ江戸例參新井白石吏に官庫所藏萬國地圖を呈し各國の文物を問ひ、輿地志を作し采覽異言是也 楊子言郭璞序に方言之作當稱軒之便所以通也萬國采覽異言也と云名採之 監見、今年壬辰註出阿蘭陀人熱田取子未しと聞か行て見はべりし人物白色頭髪赤く鼻高し其敬礼と云日鐘 幅を數十言語香舌の問より出でいしは我國の言と云りし知れり云々
 十月家宣將軍薨す前四世家宣世子家継嗣年僅四歳 後四世家宣

1713 巳亥年三
 盧草拙紙通様元右衛門層通事と云い南臺流の文字を通せり是年為長崎學頭

